

2018年度 こどもエコクラブ

# サポーターアンケート結果報告書

---

公益財団法人日本環境協会  
こどもエコクラブ全国事務局

# 調査のあらまし

---

## 【調査目的】

こどもエコクラブのサポーター及び活動の実態を把握し、こどもエコクラブが持続可能な社会づくりの担い手育成に対してどのように貢献しているか、またどのような課題を抱えているかを明らかにするとともに、調査結果を関係者と共有し、今後の事業展開の参考としていただきます。

## 【実施概要】

### 1. 対象

2018年度登録クラブ(1,802クラブ、2019年3月末時点)のうち

①メールアドレスが登録されている 1,190クラブ

②FAX番号が登録されている 24クラブ

**合計1,214クラブ**

### 2. 実施期間

2019年1月17日～2月28日(ウェブサイトからの回答は3月3日まで)

### 3. 実施方法

・アンケート回答用ウェブページを作成してメールまたはFAXでURLを案内して回答を依頼

・インターネットが使用できないクラブにはFAXでの回答を依頼

※未回答のクラブに対して2月13日、2月26日に回答をお願いしました

### 4. 有効回答数

①ウェブサイトからの回答: 457件

②FAX等での回答: 20件

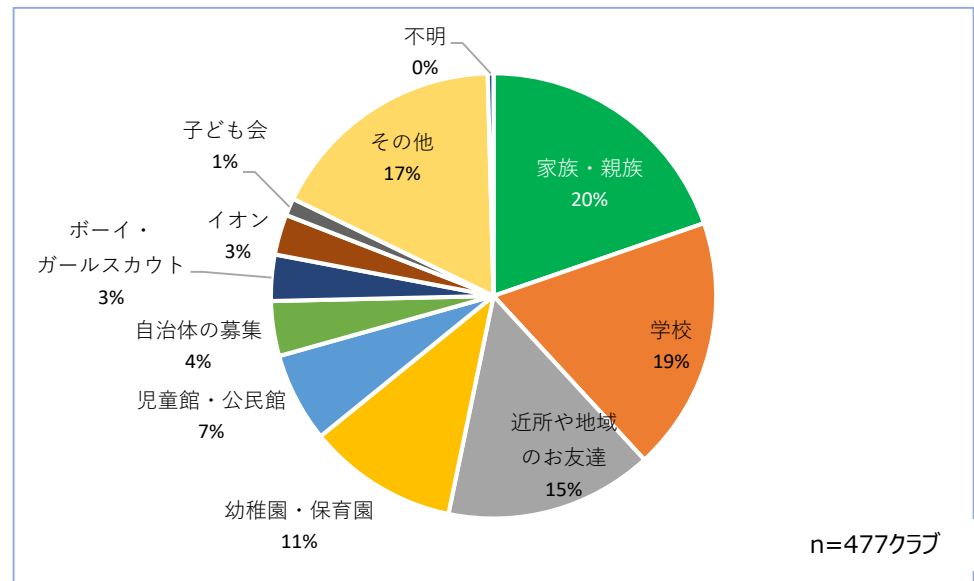
**合計: 477件(回答率39.3%)**

※2017年度は326クラブを対象に、回答数175件(回答率53.7%)でした。

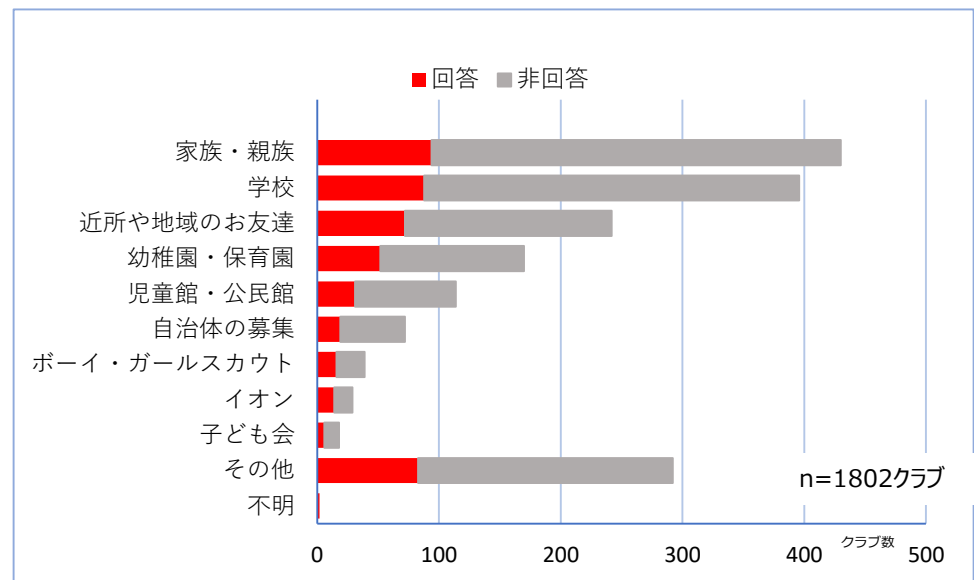
対象クラブの選定基準が異なるため、結果は単純に比較できません。

# 多様な設立形態のクラブから回答をいただきました

- 右の図は、アンケートに回答をいただいたクラブの設立形態を表します。
- 親子で結成したクラブ、学校で取り組むクラブ、近所のお友達が集まったクラブなど実に多彩な設置形態のクラブから回答を得ることができました。
- このように多様な集団に所属する子どもたちが「こどもエコクラブ」の名のもと、全国で活動しています。

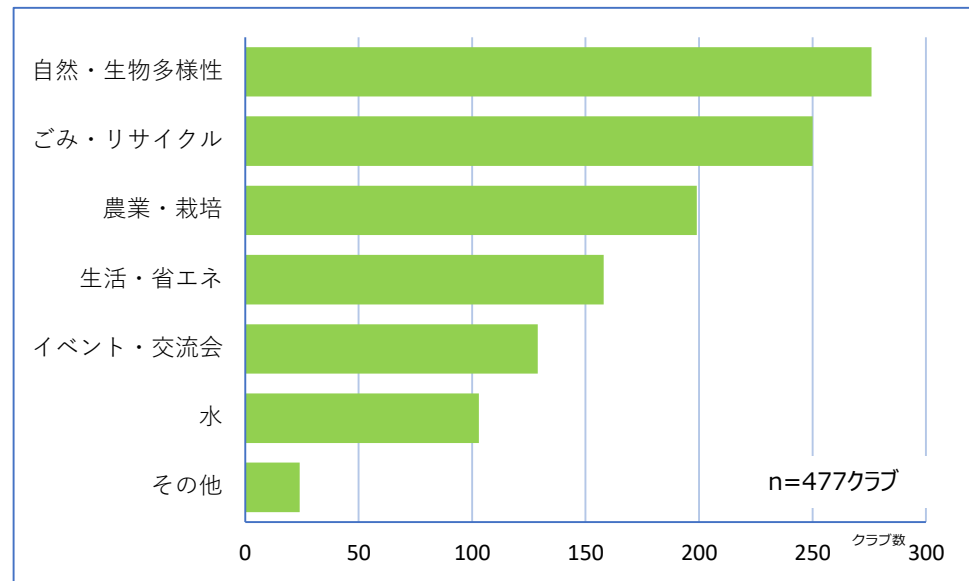


- 右の図は、こどもエコクラブ全国事務局が管理するデータベースを基にして2019年3月末時点で登録があったこどもエコクラブの1802を形態別に表したものです。
- クラブの設置形態別に、回答をいただいた数を赤く色づけしています。
- 回答の比率で見ると「近所や地域のお友達」が結成したクラブがやや高いようです。

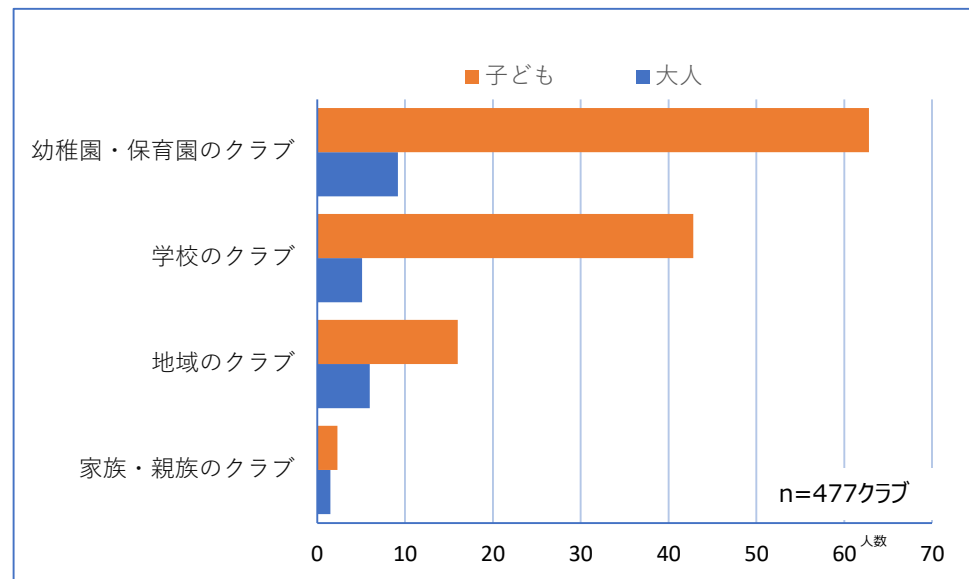


# 多様な活動分野・参加人数

- 右上の図は主な活動分野を表します。選択肢から3つまで選んでいただきました。
- 自然や生き物をテーマとした活動が最も多く、「ごみ・リサイクル」、「農業・栽培」、「生活・省エネ」の順となりました。

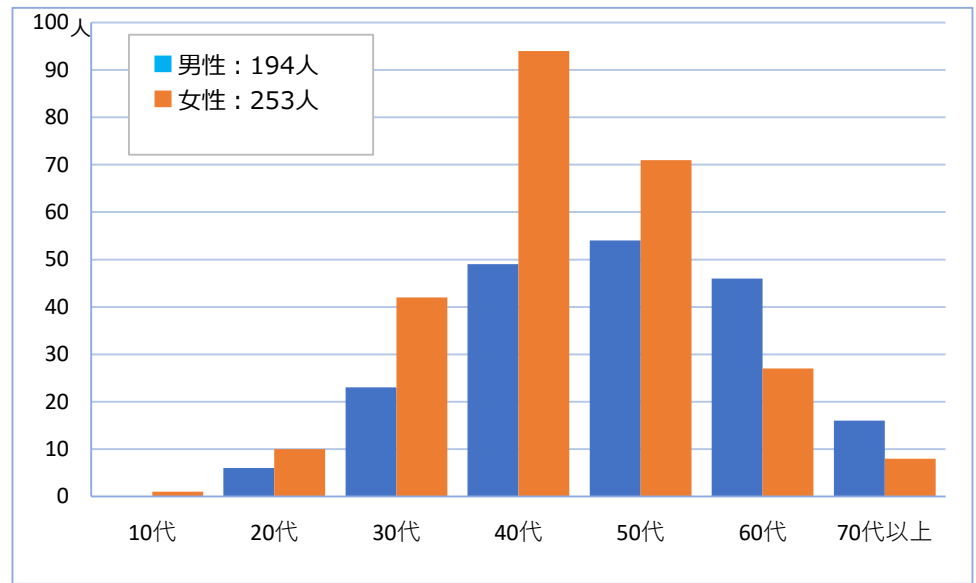


- 右の図は1回あたりの平均参加人数を表します。
- 学校は約40人であり、クラス単位で活動するクラブが多く、幼稚園・保育園は園全体で活動しているクラブが多いことが想像できます。

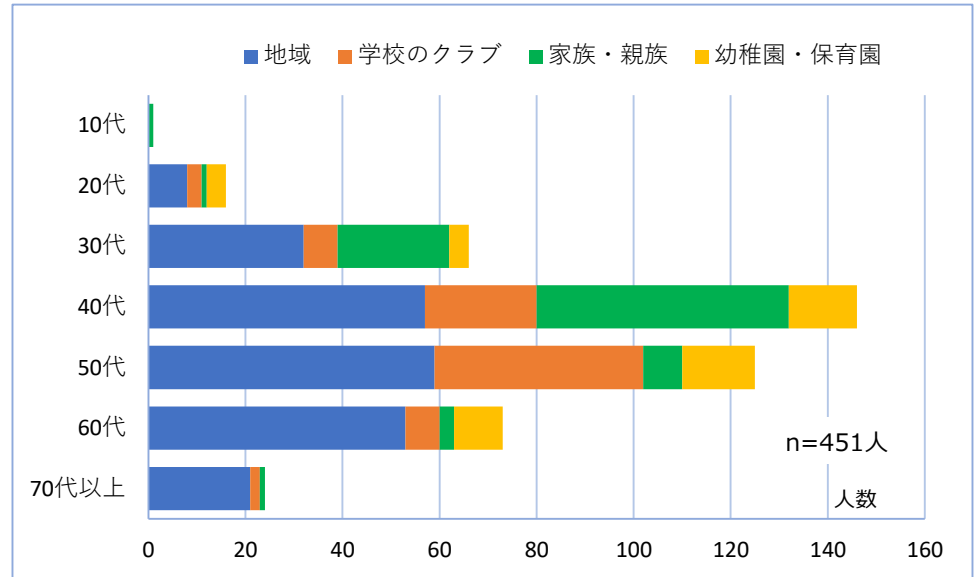


# 代表サポーターは多様性に富んでいます (1) 年代

- 右の図は、代表サポーターの年代と性別を表しています。幅広い年代がありますが、中でも**40～50代**の人が多いことが特長です。「働き盛り年代」が地域の環境問題に携わっていただいていることが本事業の大きな強みです。
- 「家族」のクラブは、母親が代表サポーターとなるケースが多いため**40代女性**が突出しています。子どもの成長に影響力が強い母親が多く携わることも強みです。
- **10～20代**の若者世代が少なく、若いサポーターの掘り起こしが今後の課題です。

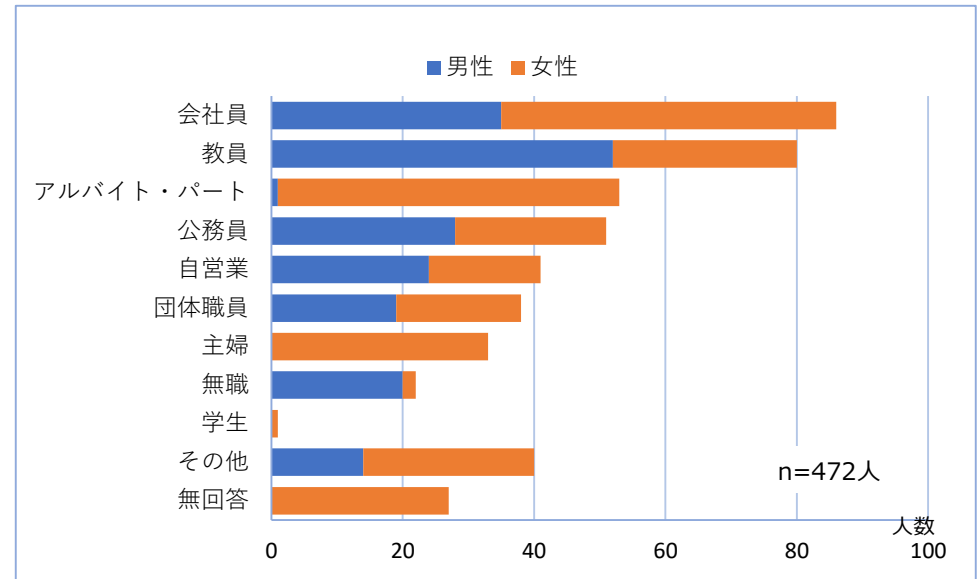


- 右の図は、クラブの設立形態別に代表サポーターの年代を表します。ここでは「学校」、「家族・親族」、「幼稚園・保育園」以外を「地域」と一括りにしています。
- 「家族」は幼児～小学生が多いことから、代表サポーターは**40～50代**が多くなります。
- 「学校」では、校長、教頭、主任等が代表サポーターとなるが多いため、**50代**が最も多くなっていると考えられます。
- 「地域」は**70代以上**の方が目立ちますが、若い層もあり、幅広い年代層がクラブを支えていることがわかります。

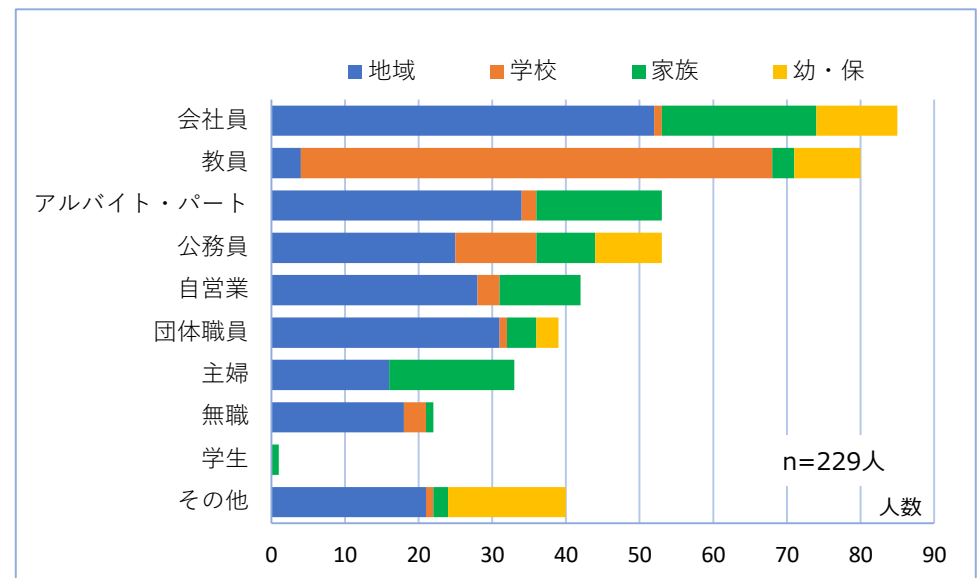


## 代表サポーターは多様性に富んでいます (2) 職業

- 右の図は、代表サポーターの職業と性別を表します。様々な職業の方が子どもたちの環境活動をサポートしてくださっていることがわかりました。
- セクターを越えて地域の環境問題に携わっていただいている方々とのネットワークを築いていることが本事業の大きな強みです。この強みを活かして地域課題解決のためにマルチ・ステークホルダーによる協働をさらに強化することが今後の課題です。

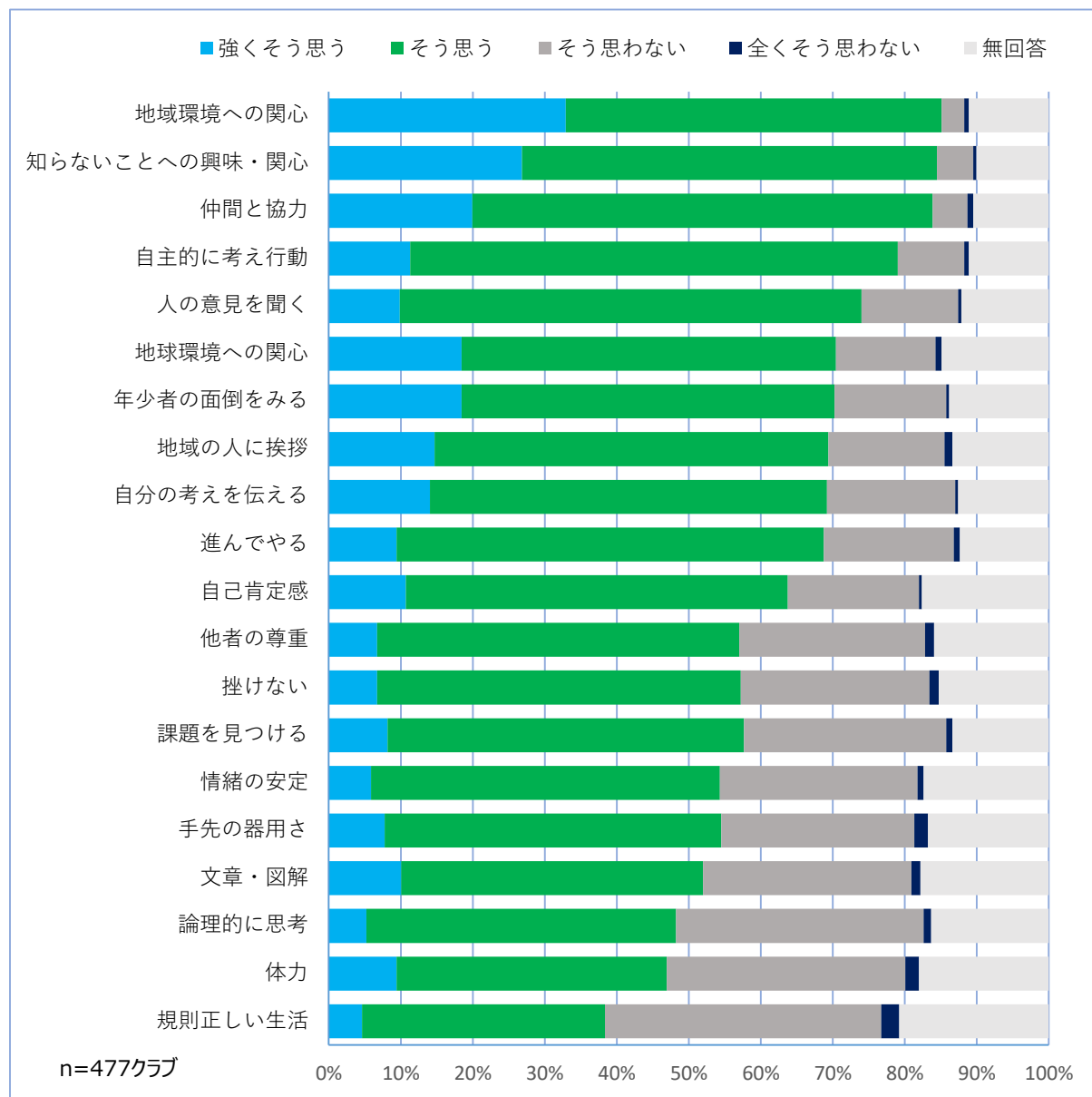


- 右の図は、クラブの設立形態別に代表サポーターの職業を表します。ここでは「学校」、「家族・親族」、「幼稚園・保育園」以外を「地域」と一括りにしています。
- 「家族」は幼児～小学生が多いことから、代表サポーターは主婦の方がが多いと考えられます。
- 「学校」は教員が多いのは当然ですが、教員以外の方も学校での活動をサポートしていただいていることがわかります。
- 「地域」のクラブは、非常に幅広い職業の方が関わっています。



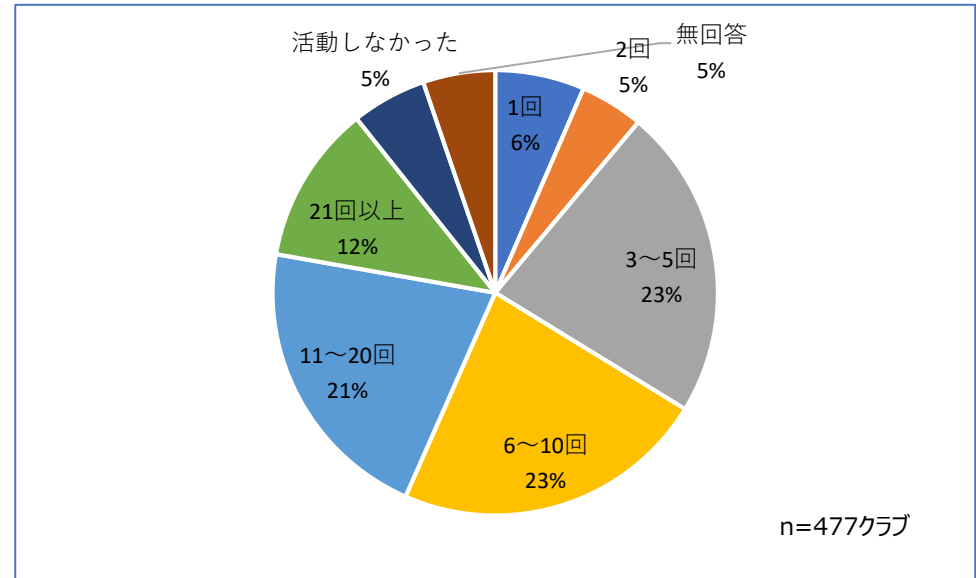
# こどもエコクラブはどのような子どもの成長を促しているか

- 右の図は、代表サポーターの方が、こどもエコクラブの活動によって子どもがどのように成長していると感じているかを表します。
- 20の項目ごとに「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「全くそう思わない」の4つの選択肢の中から回答していただきました。
- こどもエコクラブ活動によって「地域への関心」「知らないことへの興味・関心」が高まり、「仲間と協力」「自主的に考え行動」できるようなるとの回答が多くありました。

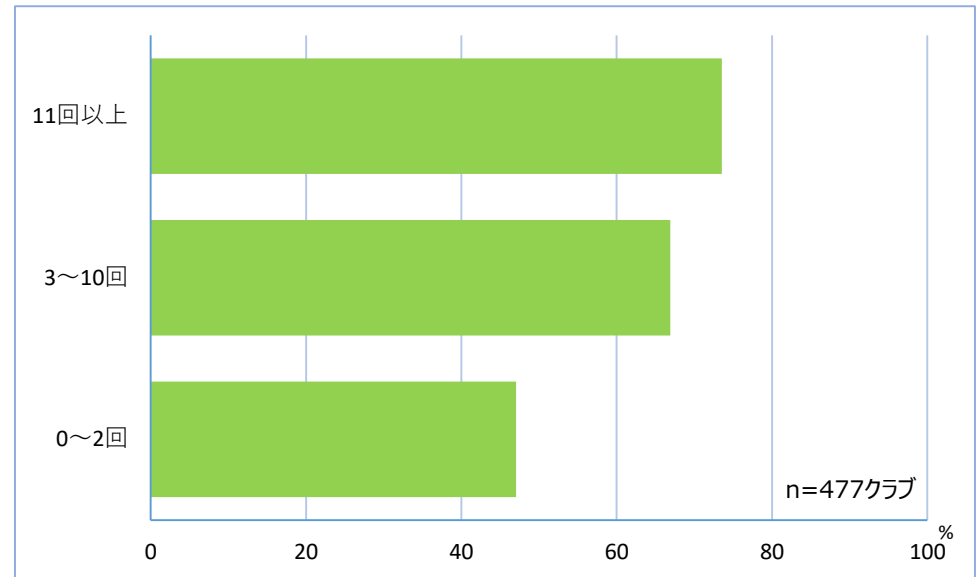


# 活動回数と子どもの成長

- 右の図は、一年間にクラブが行った活動の回数を表しています。
- 大多数のクラブが複数回活動しており、毎月1回以上活動しているクラブも約3分の1ありました。
- 継続して繰り返し活動することにより子どもたちの成長を促すこともエコクラブのコンセプトが浸透していることがうかがえます。



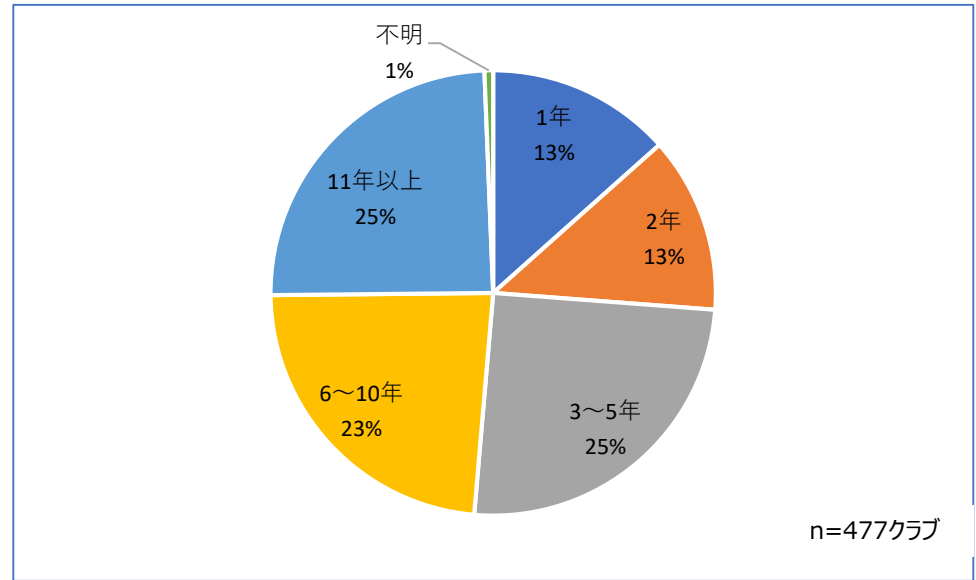
- 右の図は、年間活動回数が多いクラブほど子どもの成長を感じていることを表しています。
- 子どもの成長を把握する20の指標で肯定的な回答＝「強くそう思う」「そう思う」との回答数数え、3段階の活動回数でクロス集計しました。
- 繰り返し継続的に活動するクラブをさらに増やすよう取り組みを強めることが課題です。



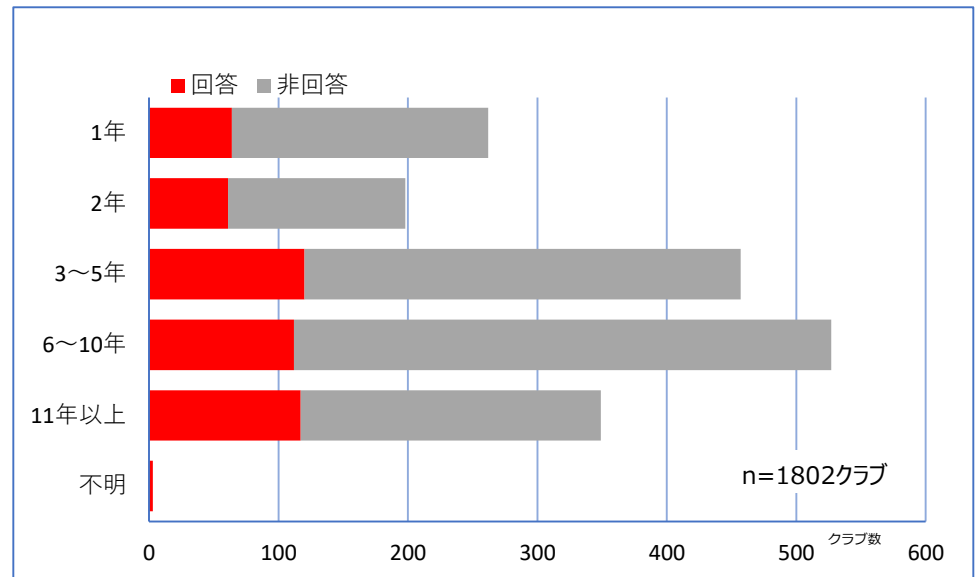


# 活動年数と子どもの成長（1）

- 右の図は、アンケートに回答をいただいたクラブの活動年数を表します。
- 2018年度に初めて登録したクラブから11年以上継続しているクラブまでご回答をいただきました。
- 長く活動が続けるクラブを増やすことが課題です。

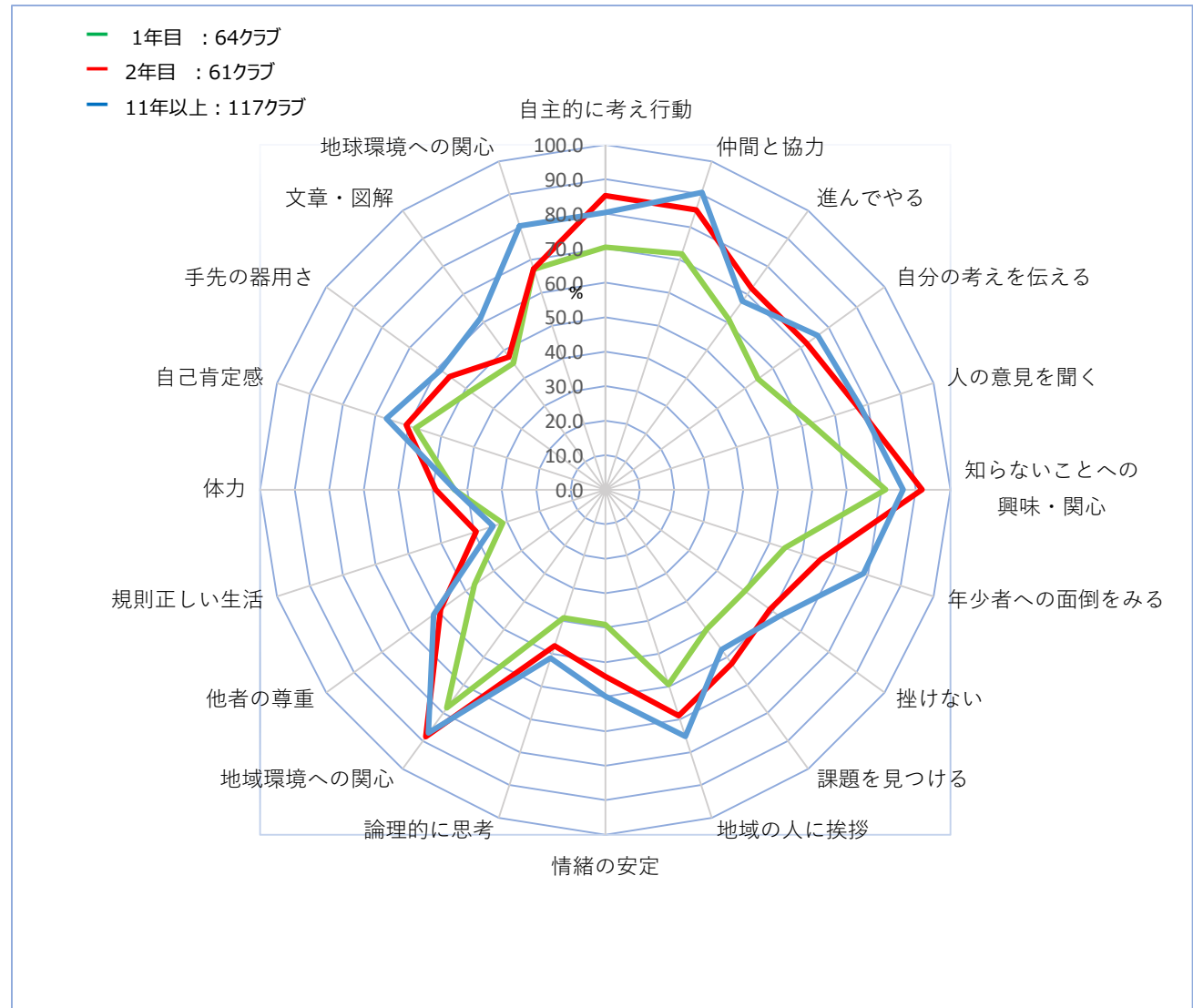


- 右の図は、こどもエコクラブ全国事務局が管理するデータベースを基にして2019年3月末時点で登録があった1802の子どもエコクラブを年数別に表したものです。
- 3年以上活動が続けているクラブの数が多いことがわかります。
- アンケートにご回答いただいたクラブ数を赤く色づけしました。
- 活動年数が短いクラブからも積極的にご回答をいただいていることがわかります。



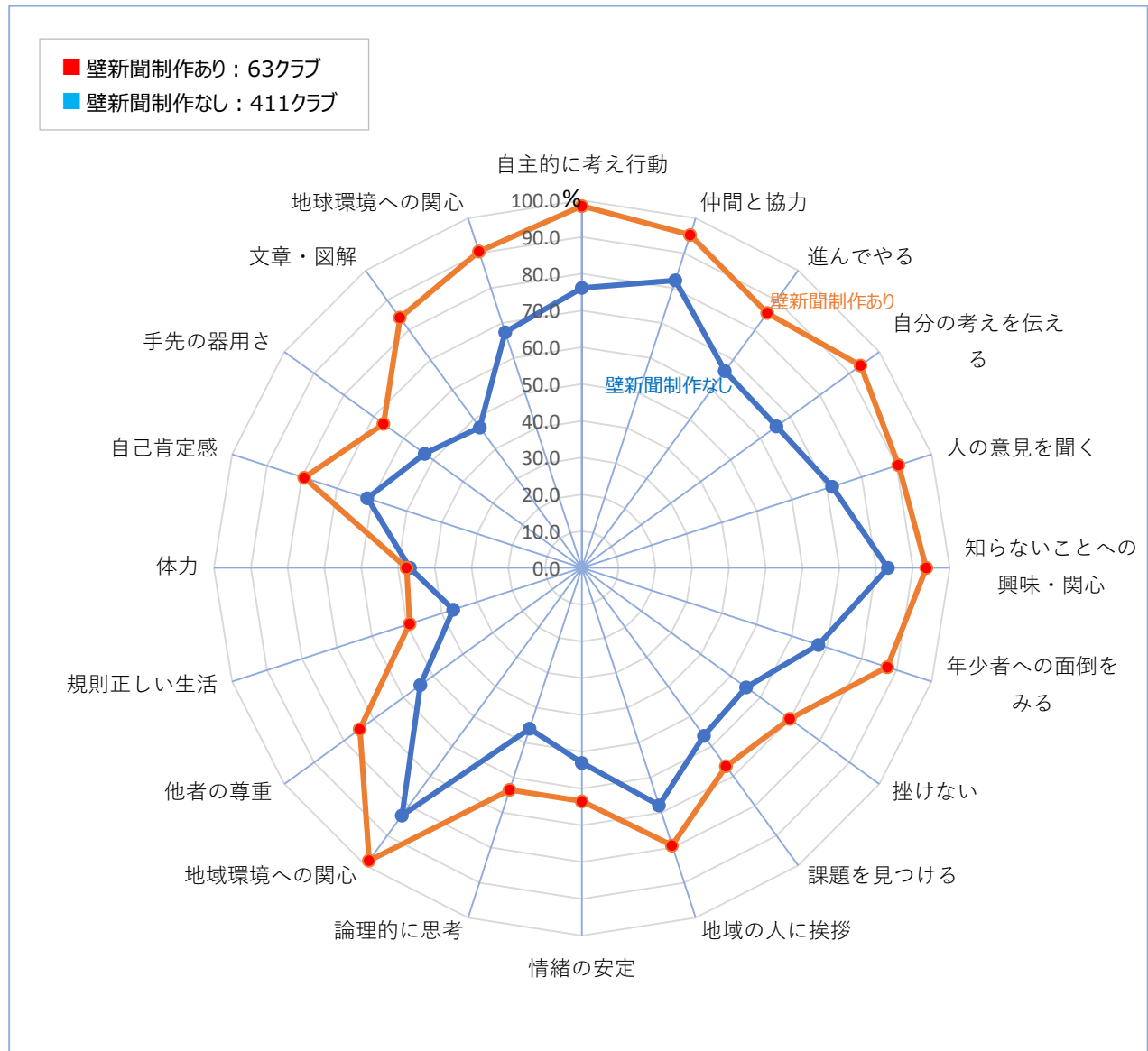
## 活動年数と子どもの成長（2）

- 右の図は、活動年数別に子どもの成長について肯定的な回答（「強くそう思う」「そう思う」）をしたクラブの割合を表したものです。
- 長く活動するほど成長を実感する項目が多くなります。特に「仲間と協力」「年少者への面倒をみる」など「協働する力」は長期の活動によって身につくものと思われます。
- 継続2年目であっても「自主的に考え行動」、「進んでやる」などの自発性、「自己肯定感」、「知らないことへの興味・関心」、「地球環境への関心」を感じるクラブがたくさんあります。今後も継続を促す活動を増やす取組を進めます。



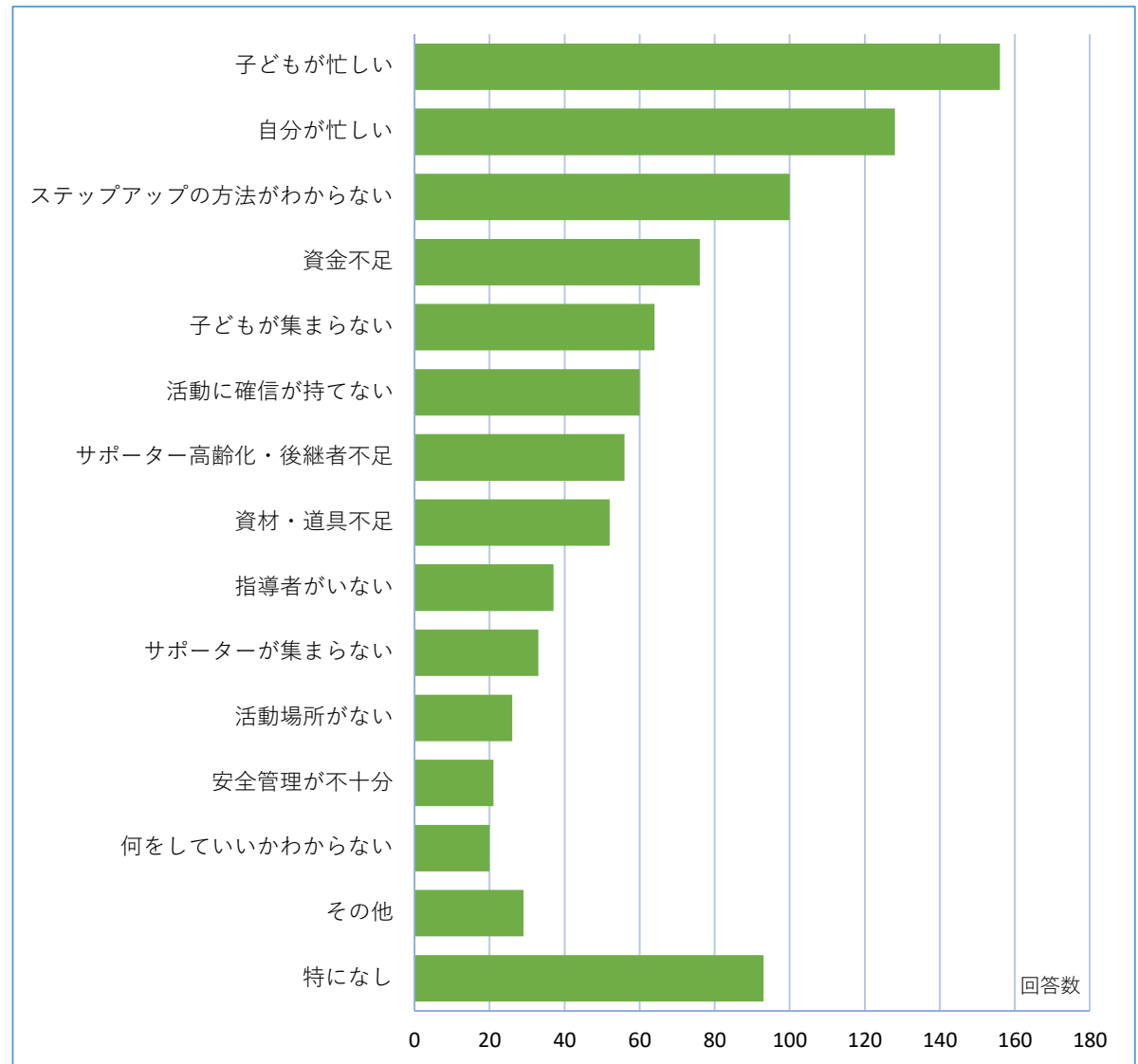
# 壁新聞と子どもの成長

- 右の図は、壁新聞を制作したクラブと制作しなかったクラブを比較し、子どもの成長について肯定的な回答（「強くそう思う」「そう思う」）したクラブの割合を表したものです。
- ほぼ全ての項目において壁新聞を制作したクラブが子どもの成長を感じています。
- 特に「自分の考えを伝える」、「文章・図解」、「進んでやる」などの項目で大きな差があります。
- 壁新聞は子どもの成長を促す良いツールですが、まだ壁新聞を作るクラブが少ないため、壁新聞を作るクラブを増やす努力を今後も継続して参ります。



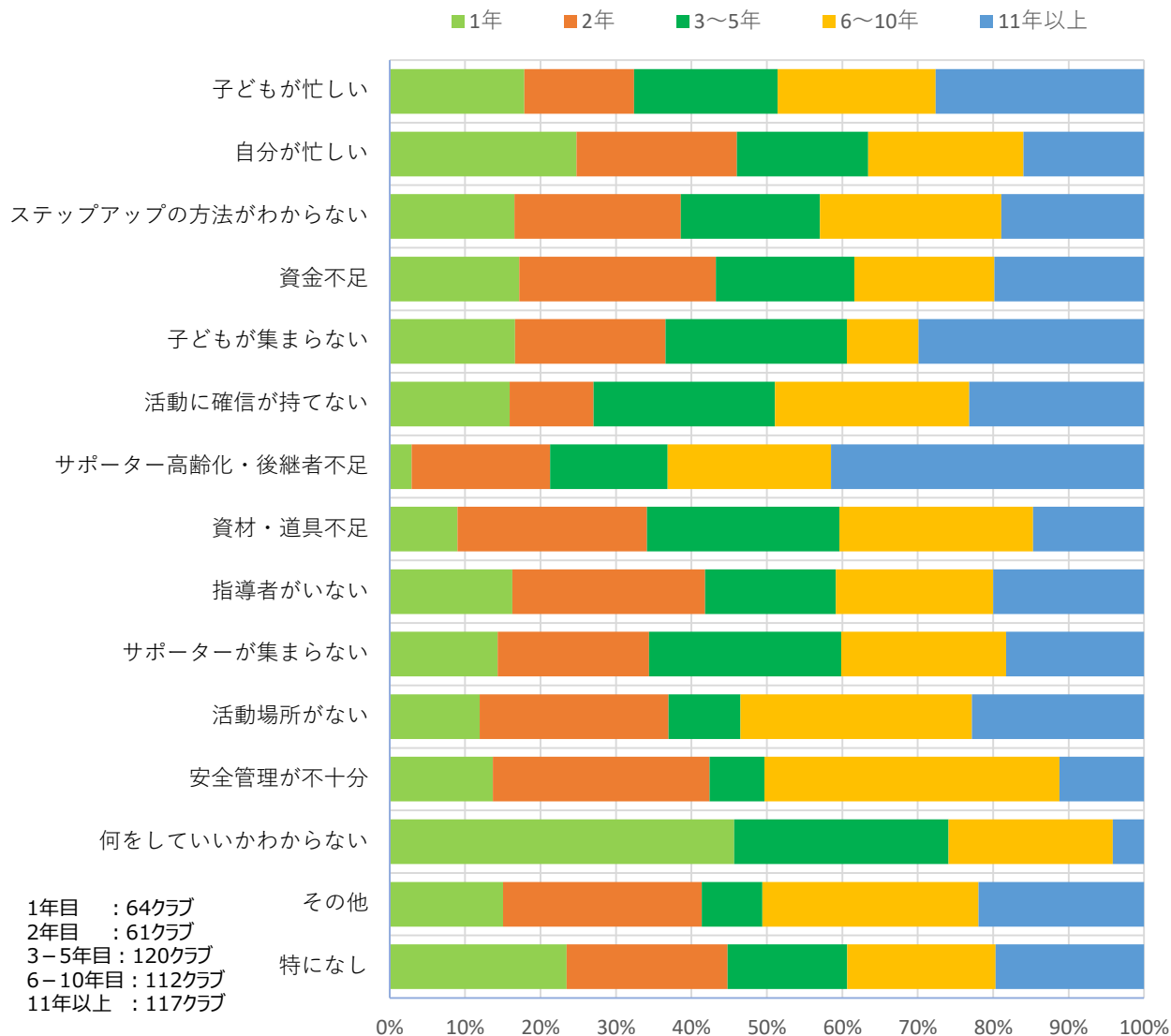
## サポーターの悩み（1）

- 右の図は、サポーターが課題として感じていらっしゃることを複数回答で答えていただいた結果を表したものです。
- 子どももサポーターも忙しくなっているとの回答がたくさんありました。「子どもが集まらない」、「サポーターが集まらない」は忙しくなっていることも一因ではないでしょうか。
- 子どもの成長を促す方法が次いでいます。ステップアップについては、壁新聞づくりが有効であることが裏付けられました。壁新聞づくりを通じて一年の活動をふりかえり、学んだことを仲間と共有するとともに、次年度の活動に活かすPDCAが定着するよう努めて参ります。



## サポーターの悩み（2）

- 右の図は、サポーターが課題として感じていらっしゃる項目を継続年数とクロス集計したものです。
- 活動を始めたばかり（1～2年）のクラブではサポーターの多忙、資金、指導者不足、安全管理の不安、活動内容についての悩みが目立ちます。
- 一方、11年以上のクラブでは、子どもの多忙、子どもが集まらない、サポーターの後継者不足などを課題と感じている方がたくさんいらっしゃいます。
- 全国事務局では活動の継続年数に応じたきめ細かなサポートを強化します。



# 活動資金源

- 右の図は、「地域クラブ」（学校、家族、幼稚園・保育園のクラブを除いた全てのクラブ）が活動資金をどのように得ているかを回答していただいたものです。
- 各クラブが工夫して様々な資金源を用いていることがわかります。
- 「その他」の回答では「参加費」の徴収などがあつた他、実質的には「実費徴収」、「助成金」、「親団体からの支援」などがありました。

